

去る4月22日、先代鵜飼良昌山主の弟子 鵜飼良宣上人が
総本山知恩院御忌日中法要で唱讚導師を勤められました。



左:鵜飼良宣唱導師、右:伊藤御門主猊下(緋衣)、御門主猊下左前:役席の二橋山主

大原山報



※越の秀嶺

勝骨勅 西
運仏 願 福
のの 寺 寺 所 寺



宗祖法然上人への知恩報恩



山主 戒誓信玄

念仏は 実りの花や 法然忌

御忌とは宗祖法然上人の忌日法要の事であり、誰もが等しく往生できる専修念仏の教えをお開き下された宗祖法然上人への恩徳に感謝する法会です。

建暦二年正月二十五日、東山大谷の禅房(今の知恩院勢至堂あたり)でお念仏の中に、お釈迦さまの御入滅に同じく御歳八十才をもって、お浄土へお帰りになりました。

法然上人の滅後三百年ほど経ち、「大永の御忌鳳紹」が大永四年(一五二四)正月十八日に後柏原天皇より知恩院第二十五世超譽存牛上人へ宣下されました。

『知恩院は浄土宗創業の道場で、祖師入滅の靈跡である。今より後、孟春の月(陰暦正月)には京畿の門葉を集めて、七日間昼夜に法然上人の御忌を修せしむべし』との詔により、これより法然上人の忌日法要を『御忌』と言うようになりました。各寺院では勅会として必ず、御忌を営むようになったのです。本年は八百十二回忌にあたります。皆様と共にささやか乍、報恩のお念仏を奉げたいと思います。

此の度の布教師様は、総本山知恩院布教師で大野の善導寺ご住職 大門俊正上人です。尊いお話を頂戴することが出来ます。万障繰り合わせの上お参り頂きますよう御願致します。出会い難き、尊い法の縁に進んで出会いましょう。

※徳川御三家・御三卿、越前・会津(松平家)の方がご住職となられた寺は『秀嶺』と呼ばれる。

御忌法要の御案内

法然上人御忌法要を左記の如く厳修致します。万障繰り合わせの上お参り頂きますようご案内申し上げます。

記

五月二十四日午後六時

速夜法要

二十五日午前八時

御忌日法要

午前八時半

祠堂施餓鬼

午前十時

説教

午前十一時

日中法要

※日中法要にて

富山五十世

眠譽良昌上人三回忌大祥忌

回向を勤めます

一、説教 総本山知恩院布教師

大野 善導寺 大門俊正上人

於：仮御堂

(七頁の図を参考に下さい。)

〔本年度 新祠堂開白芳名昨年度分含む〕
施主 続柄 戒名

和田 宗晴 母 清心庵梅譽良香妙性大姉

赤田 謙司 母 春光浄園大姉

館 敏雄 母 染香院釋尼妙蓮

山田 敏夫 夫 願譽本國浄誓大姉

角谷 佳子 父 聞信院徳譽弘学浄入居士

景山 誠治 父 景山誠治家先祖代々

景山 恒典 父 景山富雄家先祖代々

松橋 寿造 父 久保家先祖代々

松橋 寿造 父 戒譽圓月了頓居士

川崎 寿造 父 圓譽春月浄心大姉

川崎 ゆかり 父 秋岳浄斉信士

〔御忌祠堂施餓鬼特別回向芳名〕

植木孫助 篠原幸子 加藤勝治 山田一博

大矢直樹 松谷恵美子 田中肇 山川五良

兵工 藪下聡 隨原小左工門 道白音松

藤原藤兵工 尾子徳治郎 熊谷丹後 村井

忠雄 大道長九郎 坪谷俊治 宮本潔 佐

藤登 塩津卓雄 松葉利彦 山田秀之助

中村伊予 比田紘 宮川清裕 森口久夫

川田義昭 野瀬長七 萩浦まさ 加藤吉兵

工 的場治良四郎 浜野寛 塩津京子 増

田進 道白正治郎 小島学 松葉武士 山

口末松 松島実 泉正信 幸田達雄 杉田

重太郎 加々爪忠 辻子彦右工門 松永寿

子 山口清美 堂田竹男 柳田五郎 谷川

浩治 上田晴義 澤崎猛 山本富美子 鈴

木春之 寺村正義 森口仁平 朝見養蔵

幸田繁 坂田ます 山口むめ 奥田小司

宮川肇 寺田伊佐工門 畑田婦身子 川寄

敦司 谷出斉 前田信治 松原晟雄 窪田

平三郎 中村信一 北村喜久治 河瀬照子

上田とみ 奥田孫太郎 橋本六造 山口久

滝波善一 坂本あい子 森口寿夫 笹谷ヤ

ス子 水口透 松永和夫 松葉馥 角谷郁

夫 向山利幸 田中幸一郎 山口末七 窪

田実 大平正幸 和田彦太夫 村尾寿一

中島栄作 高岸裕 田中正勝 鈴木茂 井

上まき 保花甚五郎 稲葉一男 上田耕作

松葉功 沢崎留吉 宮原貞治 定徳武夫

藤原藤雄 中村直行 向山輝 上田幸久

森本しげ 久保富子 川口光夫 金井勇

中谷太良作 谷出晴彦 堀口三郎 松村作

幸 塩谷いと 西念寺 松永越中 宗野か

の 前田充三 畠中幹雄 朝見一 大谷輝

夫 松永勇二 南章治 北川昭夫 金森芳

広 稲葉五良四郎 村口利一 堀居雪子

高松顕 赤星良昌 山田しず江 足立友成

田辺一郎 稲葉信孝 景山三良太夫 奥田

善四郎 沢崎喜代治 藤本輝孝 今村きく

堂田唯雄 畑中真 奥田みよ 福島尚樹

畠中博明 東正太郎 朝見孫兵工 角野と

し子 扇博之 西村ぬい 岡田孝義 成瀬

静 宮原敏雄 河辺久男 高野義昭 竹澤

鼻 谷出与吉 景山孝一 小森富美子 山

口総直 奥田弥五郎 藤井英子 田中直行

奥野嘉積 村井やえ子 小林廣先 二ツ矢

セイ 河端副成 粕山まさ子 高野浩 坂

木善浄 高岸政子 幸田國男 河端満 中

川助一 中谷幸治郎 長谷川信義 小松次

夫 稲葉代四輝 久保昌三 奥田菊次郎

幸田慶久 景山隆茂 畑井国蔵 松永安
 楽 保花政春 内山一正 菅野倉雄 橋
 詰真澄 景山誠治 佐野房枝 上田友和
 幸田慶久 景山隆茂 畑井国蔵 松永安
 楽 保花政春 内山一正 菅野倉雄 橋
 詰真澄 野崎六左門 稲葉彦作 高谷
 皓之 堀口格世 山田豊幸 久保与治平
 角野宗雄 森腰治良兵卫 谷出与茂五郎
 加藤昭治 保花勝 橋本義一 稲葉みど
 り 森下三郎 大塚祐司 久保吉郎 吉
 田邦夫 上野秀子 岡田義和 畑田彦兵
 衛 吉開一幸 畑守学 松岸院 森本睦
 枝 寺田幸男 山田順 中川信夫 高橋
 俊介 小島紀弘 松永治左門 谷出齐
 東谷清 宮原継男 中村彦太夫 西村由
 夫 田中康弘 八田昇太郎 辻仁太郎
 南尚子 壁腰力 山口正視 岡本治雄
 奥井治 松永茂 藤井博貴 芝原浩 道
 白順一 上田三壽 浜野幸一 熊谷陽
 山口忠次 久保逸男 久保与治平 稲葉
 均 浜野伸浩 菅原美枝子 稲葉麗子
 増田孫四郎 鳥居忠 中村太門 谷口末
 治 奥田小司 北村とらを 中村利雄
 沢崎和典 熊谷陽 江良みどり 西野恵
 子 加藤正樹 桐畑よしえ 宮原敏雄
 勝木みどり 加藤吉美 金井昌子 川田
 将夫 甫里定信 中村孫太夫 加藤敏枝
 清水誠一 松田信行 河端公 谷出昌夫
 橋詰進 金井弘子 坂元富之助 久保旬
 子 保花博 河端昇 中村誠一 赤星忠
 前田信治 澤崎喜平 山田正文 田中肇
 石川清 赤澤貞夫 山本弘子 壁腰学
 中川武郎 津田博 松橋寿造 西尾純一

赤星亮一 田中順子 坂木浄昭 森口明
 山本耕吉 加藤守 景山泰裕 井口留夫
 山中慶子 澤崎義一 久保隆夫 加藤誠
 治 森田高夫 増田貞次郎 南繁治 増
 田強一 高松頭 芝原利雄 松永敏雄
 松島寛 赤田百合子 加藤彰 宗野三雄
 稲葉良一 野崎慶子 上田行弘 景山隆
 茂 中村昭彦 鷺田清子 柳田富美子
 芝原利雄 川久保孝夫 川井和夫 豊川
 たつ 松永義一 今度和雄 赤星英之
 石畑容子 小林明美 柳田富美子 窪田
 きくゑ 久保逸男 中村貴之 野崎武男
 八田昇太郎 辻子嘉郎 柴田健次 西村
 誠 澤崎宇平 金井義金 景山義行 金
 井隆幸 橋詰貢 谷口政子 久保俊作
 加藤鋭史 加藤彦重郎 増田松二 岡本
 すえ子 浜野学 清水賢涼 松永暎
 田山茂雄 菅野光夫 寺田和男 河端深
 東茂治 河辺真奈己 東秀一 田中和子
 奥田敏明 内藤一彦 井上紀美子 伊原
 透 的場健夫 榎村繁一 畑中卓実 大
 谷輝夫 瀧脇秀夫 畑守芳子 金子久美
 子 上野齐 森下里美 中村一枝 畠中
 陽子 松永勇二 松永一孝 窪田俊美
 奥野一義 赤田利博 足立佐智子 吉田
 裕 北川和弘 景山健一 田中久子 鈴
 木町栄 垂水壽美子 朝見勇 遠藤智
 久保富子 長谷川富夫 堂下武雄 奥村
 照男 稲葉均 森田芳樹 谷口政子 赤
 田晴彦 林美知子 上見常男 池本英男
 向山功 山本みつ江 高橋みや子 濱上
 和夫 松葉憲明 田倉裕士 久保富子
 堀口保雄 辻すみ子 川田克己 中谷愛

子 森田千尋 坂本みゆき 林健治 畑
 芳則 町野恵 山本一士 河辺久男 谷
 出修 遊津一徹 畑幸夫 稲葉俊郎 中
 村真一 花木信徹 中川巧

【普通回向芳名】
 柳村由松 森下芳久 奥田又四郎 奥田
 清右門 奥野彦四郎 稲葉俊作 浜野
 彦三郎 窪田平八郎 芝原由松 増田孫
 助 加藤彰 加藤彦十郎 保花さき 吉
 沢卯右門 随原小右門 平本藤三郎
 滝波七兵卫 随原又右門 随原小平
 加土孫左門 仲野助右門 沢田正夫
 中村三右門 中村刑部 中村孫太夫
 加藤四良左門 磯部清助 東五右門
 東甚右門 山本彦兵卫 榎村繁 山本
 五良右門 平山長蔵 辻野繁雄 花谷
 沢三 大谷光男 中村重右門 中嶋徳
 太郎 白木長太郎 吉田一彦 武長治良
 右門 山口弥三郎 浜野彦次郎 畑守
 甚兵卫 石川清 山本司 森本八十治郎
 山口甚五郎 森田四良太夫 河端深 森
 本護 右馬とめ 山本あさ 亀善次郎
 山本万理子 谷口善四郎 田中永三郎
 藤井正一 小林実 小松春一 中村兵卫
 竹田太良三郎 刀祢市左門 野崎富三
 松葉はる 水谷滝三 佐上文左門 中
 村庄太郎 東治右門 中村勇吉 五十
 嵐真光 山本栄一 若泉すゑ 岩城浄蓮
 立木九兵卫 篠田修 沢田きく 山本登
 志雄 野崎治良兵卫 清雲院 奥田力ツ
 子 沢崎藤一 田中和雄 篠田与市 野
 崎慶子 奥田幸雄 (順不同・敬称略)

西福寺の文化財

講師 奥村 香子 氏

令和四年八月四日(木)開催

暁天講座 講話より (最終編)

文化財の修理ということ、お金ももちろんですが、文化庁の方とお話して事業が円滑に進むように、ですとか、歴史的建築物の修理のプロの方たちと契約して工事を進めていくのですが、どうしても文化財は独特のルールや直し方の考え方があるので、お寺さんと専門の方たちをつないでいくような立場として、通訳のような形になるかもしれないですね。お互いの思っていることを通訳してお寺さんにとって、それから敦賀市にとって、そして国の文化財ですの国にとつて価値ある修理になるように、ということ、橋渡し役として今後も頑張っていきたいと思っています。仮設だけで二年かかってしまうので、今後どうしようかという相談ですが、これだけの規模の建物の修理、しかも庫裏と合わせると十五年もある修理というものも敦賀市ではもうない。ここ以外にないというように思っています。

例えば、単純に比較できませんが、柴田氏庭園の修理が、着手から完了まで五、六年、少しずつ引き伸ばされてそうやって

まったのですが、今年度末に完成です。総額が三億円ちょっとくらいです。あれでも相当な敦賀市の中でもかなりしっかりやったほうですので、こんな何十億円という事業、そしてこのサイズ感というのはもう多分ないと思います。しかも昭和二十五年に修理しているので七十年振りくらいですから、私たちの生きてるうちの次の修理は恐らくないであろうと言えると思います。

この非常に貴重な機会を、できるだけ皆様にみていただきたい。修理の現場を見ていただきたいと思っています。特に若い世代の皆さんには、修理を見ていただくことで文化財の大事にしようという気持ちを持つてもらいたいですし、敦賀にこんなすごいものがあるんだという、郷土を思う気持ちを育ててほしいとも思います。

さらには、文化財を専門に仕事をさせてもらっている身としては、文化財の修理の業界は非常に後継者不足といわれていますし、文化財にかかわるお仕事はこんなところがあるんだと知るきっかけにもしてもらえたらと思っています。こういう歴史や本が好きです、文化財の仕事をしたいなと思う人は、ついては私のような学芸員にならなければと思うかもしれないが、ただ、実際に文化財の修理というのをしていく立場の人たちは学芸員ではないです。学芸員はちよつと古いところを調べて、補助金の申請をしてお寺さんからお金出してくださいよと言ったり、事務処理してるだけの人みたいなのところもありまして、本当に修理をしてる人というのは設計士さん、大工さん、左官屋さん、瓦屋

さんなど職人さんです。あとは金具をつくる職人さんとか、文化財にかかわると一見思わない職業でも、色んなところで文化財に関わることができるといようなことを、この機会にぜひ知ってもらいたいと思います。単に、こんな貴重なことはめつたにないので見物に来てくださいます。色んな人に見ていただく、これが文化財にとつても大事ではないかと思っています。

そもそも文化財とはという話になってしまふのですが、古いものだからいいのか立派なものだからいいのか。一体なぜ文化財に価値があるのかということを考えてみると、なぜかとなると思います。

文化財は文化に価値を求めるわけなので、私たち自身一人一人が素敵だな、大事だ、なくしたくない、残したいなと思つて、社会の合意がとれたものが文化財です。

つまり社会の中でこんなものにならないと思う人が増えれば、文化財の財としての価値はなくなりいらないものになります。この建物も壊して近代的な同じ規模の建物を建てた方が安いですが、ここで時間も手間もお金もかけて数百年前のこの建物をたてようとした人のと同じ気持ちで本堂を直す、そこに皆様がいたいと思う、ステキだと思つて、大事だと思つてそれで文化財が文化財になっていくということがあります。

ではどうしたらみんながそのような気持ちになるか。この建物が文化的な財産だと思つるか。これ、学生の時ずっと考えているのですが、大事なものは知ってる、なじみがある、単純なことですが、来たことが

ある見たことがある、触ったことがあるなどの経験が非常に大事ではないかと思っ
ています。だから多分、氣比神宮に行っ
たことがない人は恐らく敦賀市内にいない
と思うのですが、そうすると氣比神宮の
大鳥居が敦賀の人にとってはシンボリ
的な気持ちになる。だから直そうとした時
にぜひともそれは残さないといけな
いのだという気持ちになる。

同じことが他の文化財全部にも言える
わけですが、西福寺もここに一度でも来
たことがある見たことがある、修理を見
に来たことがあるという人が増えること
によってその人たちの思い出の中に西福
寺が残る。西福寺が思い出に残ること
によって次に残すために何か手を入れな
いといけないとなった時、これはぜひ手
をいれるべきだという気持ちになるとい
う。このサイクルが非常に大事だと思
います。
ついつい、修理が目の前に迫っているの
でお金のごとをどうかよろしくと言いた
いですが、せつかくこんな今日早い時間
に西福寺に愛をお持ちの方だと思いま
すので、ご友人、お知り合い、ご親戚の方
に、ぜひ西福寺にきていただく、お金の無
心はしなくていいので来ていただくところ
から始めるというのが大変うれしいと思
います。

最後に自分の西福寺への愛が出てしま
い恥ずかしいですが、これから私も西福
寺に愛を持って修理が順調にすすむよう
に頑張りたいと思っておりますので、皆様ど
うぞよろしくお願いいたします。本日はあ
りがとうございました。(完)

大原山西福寺 法類総代・責任役員・修理委員会副会長

三河教区隨應院住職 木村昭玄上人

去る三月三十日ご遷化される 世寿七十二歳

大蓮社願譽上人誓阿行空昭玄大和尚

上人の還来穢国を願ひ謹んでご報告申し上げます。



前列中央：故鶴飼隆玄山主(当時)
左：故木村昭玄上人、右：佐々木良玄上人
後列中央：二橋信玄現山主
左：山田孝玄上人、右：故西澤俊明上人
(山報 昭和六十年十月十日号より)



令和四年十月二日 骨佛開眼法要にて
山主、バイマーヤンジンさんとの写真

珍しい「切り絵アート」は若狭出身、関東で活躍中の黒猫モモさん



阿弥陀堂で御前様のミニ法話を聞く回廊カフェ特別茶会に参加の皆さん。

西福寺と藝
三月十二日(日)
くスタジイを目に
焼き付けてく

地区生産野菜を使った味噌汁。おにぎり、せんざいに心も温まります。



大勢の方が半日かけてスケッチされていきました。



おお原の里ではサイドカー乗車体験が大人気でした。



西福寺
と
藝
safakaji
moes
art
今後も様々なことができるようにロゴもデザインされました。

日本画の画法で皆が描いた「カラフルなスタジイ」



回廊から庭やスタジイを眺めて茶懐石をいただく人気企画。



御影堂の外階段が売り場になって、古きよきものが次の方に譲られる場になりました。見た目も不思議な空間となりました。



スケッチ画は、市役所食堂にて展示されました。(四月のみ)



奉賛会だより④

令和五年度

西福寺文化財修復事業奉賛会総会

日時：令和五年

六月三日(土)十四時

場所：西福寺書院

・平成四年度方針

「国の重要文化財・敦賀市の宝・観光の拠点・心の安らぐ浄域・人の集う安楽の聖地である名刹西福寺。この本当の素顔が市民の皆さまにも十分には認知されていないのが現状です。令和の大修復事業の出發にあたり、多くの皆さまに西福寺文化財修復事業の重要性、必要性をご理解いただき、浄財勧募のお願いに努めてまいります。」

・西福寺の素顔を知ってもらうために、大修復の節目のイベントなどの機会をとらまえて、SNSを通じた広報、マスコミやRCNへの案内などに努めてまいります。

・浄財勧募のお願いでは、敦賀商工会議所の経済界の方々や敦賀医師会の方々をはじめ、県内外の皆様から、多くのご寄付や指定寄付のご予定をいただきました。心から感謝申し上げます。

西福寺は敦賀の誇り、福井の誇り、日本の誇り。みんなの力で、しっかりと後世に残しましょう。

・一方で奉賛会会員の募集については、ご縁の輪を十分にはひろげることができませんでした。一年を振り返りますと、ご縁の輪が肝心かなめだというのを痛感しました。どうぞ一緒になってご縁の輪を広げていきましょう。お力添えをお願いします。

・西福寺掌前味噌

○日々是好日(市役所の売店)

○道の駅三方五湖

○九十九千(こもち)・旧五湖の駅

○キトテノフ

○中道源蔵茶舗神楽本店

西福寺の名物として右記店舗に置いていただくと地道に種をまいてきています。



募金箱設置箇所

ご紹介

津内町・

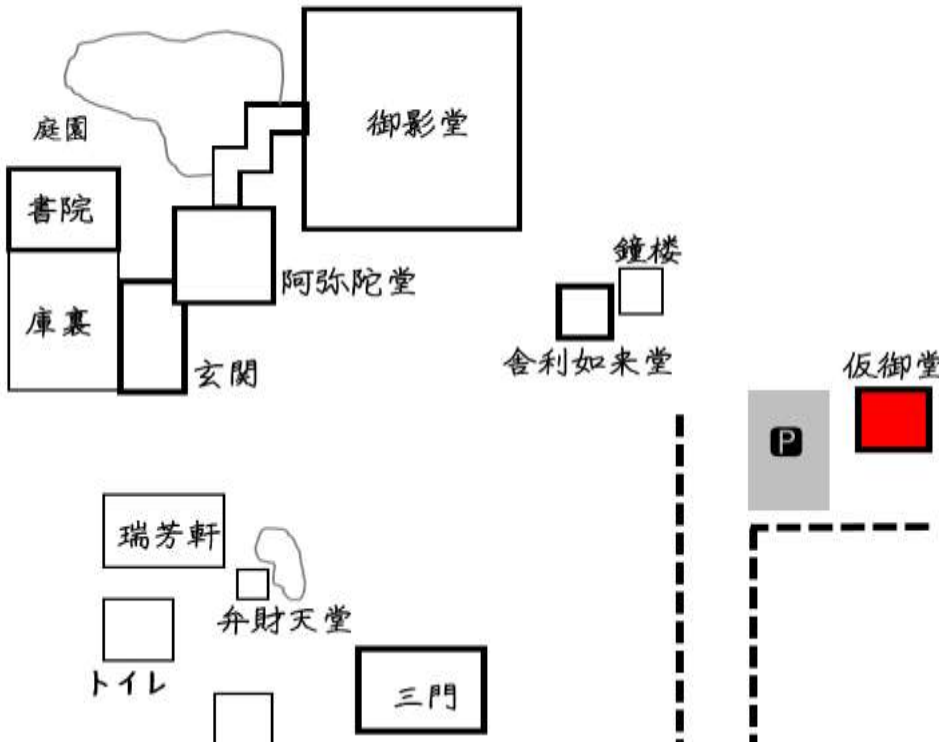
三宅眼科様

■修復事業・寄付金の詳細はこちら！

■修復事業の進捗だけでなく、西福寺の魅力を発信していきます！

Instagram

西福寺境内案内図



大修復工事に伴い、御影堂は入室不可となっております。仮御堂の位置をご確認ください。

※仮御堂にトイレはありません。

※山内工事中に付き、十分にご注意ください。まいりますようお願い申し上げます。

寺務所通信

今後の行事予定

拝む人
きつと人から拝まれる

【別時念佛
法話の会】

五月三日(水)はお休みします

【修養会】

五月九日(火)午前 日本PS研修会

【御忌会】

五月二十四日(水)～二十五日(木)

【警誓旅行受け入れ】

五月二十六日(金)午前

【別時念佛
法話の会】

六月三日(土)十時～

【奉賛会総会】

六月三日(土)十四時～

【別時念佛
法話の会】

七月三日(月)十四時～

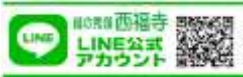
【暁天講座】

八月三日(木)
四日(金)各朝六時～

【大寄法要】

八月八日(火)～九日(水)

※コロナ禍の状況により各法要行事等の変更がある場合があります。西福寺ホームページと合わせてご覧ください。



【各種教室】

◎書道教室 井上白紗
月2回週末
一回千円

◎ヨガ教室 川島香
第二・四金曜
一回千円

◎華道教室 浦里足榮
第二・四木曜
月謝二千元 花代各千円



作: 松尾佑一



福智院浦里信祐上人結婚式
戒師をされる山主 四月十五日

西福寺修復事業積立金

寄進者御芳名 (四回目掲載)

- 愛知 三河教区教務所様 五万円
- 葉原 花木 秀実様 一万円
- 越前市 小形 真希様 五、〇〇〇円
- 米原 矢守 郁夫様 一万円
- 津内町 宮川 愛子様 千円
- 白銀町 濱野 様 千円
- 市民有志 回廊力フエ様 三三、六二五円
- 市民有志 なむなむ募金様 八、二三五円

※右、御芳名を記し、西福寺修復事業に充当させていただきます。ご寄進者に対し心より厚く御礼申し上げます。

編集兼発行人・二橋 信玄
発行所・敦賀市原十三七 西福寺寺務所
電話・(0770)2213926
FAX・(0770)2214989
メール・sai.fukuji@tnt.ne.jp